

バッタ広場 植生の変化に驚くばかり

2004 年 11 月 15 日

2002年10月と2004 年10月の調査結果から植生の変化をご紹介します。2002年10月は自然のまま2年半たった状態、2004年10月の調査は、南側で木を2回、北側で木を1回、ササを1回切った後の状態です。

調査は南北約33mのライン上の植物(と樹木の場合は樹高)を1mを1区間として区間ごとに記録する方法です。全部の植物についてご紹介すると煩雑になるので、グラフには7区間(1区間は1m)以上で出現した植物だけ示してあります。それによく目立つセイタカアワダチソウを加えました。

エノキの本数だけ比較すると、現在は2002年の頃と同じ位です(つまり木の本数は木を切る前の状態に回復したように見える)。木の高さの比較は次回ご紹介します。

2年前にあったタカバミ、チドメグサ、ハルジオオン、ヒメジオオン、ギシギシsp、コナスビ、セイヨウタンポポ、ハナタデ、イヌタデは負けて消えてしまいました。刈ってはどうかという声があったくらいはびこっていたイノコヅチはダウン傾向か？そして新勢力はクズ、ガガイモ。地下茎で増えるセイタカアワダチソウは1本の株が数本になって？派手に目立っています。

「そんなことわざわざグラフにしなくても見ればわかる」と言われそうですが、過去の状態が記録されていればこそ、調査をしていて納得できるのがおもしろい。植物が精一杯生きているバッタ広場は、生き物も多く、生命の輝きを感じる場所です(坂本 郁子)。

